

令和五年度 奈良県教育長賞

現状把握から未来を考える

育英西高等学校 二年 古林 環奈

弱者を保護しなければならない。そんなことはわかっている。だから、一〇〇〇万円以下の収入の個人事業主やフリーランスの人々は、免税事業者といって税金を納めなくてもいいという制度があるのだと思う。しかし、私たちは同時に平等を大切にしている。だから、世の中にはルールというものがあって、それを守っていかなくてはならないという決まりがあるのだとも思う。

最近、家族でニュースを見たときにちょうど「インボイス制度」という二〇二三年十月からの新しい制度について賛成か反対かという話を聞いた。私の両親は毎日仕事をしているのでインボイス制度について賛否どちらなのかということで盛り上がった。二人とも賛成だった。たしかに、免税事業者なのか、消費税の申告および納税を行っている課税事業者なのか今の現状では正直見分けがつかない。だから、課税事業は本当に消費税を払っているのか見当がつかないため、電子請求書を作るというのは、ある種のルールをきちんと守るという大切な制度なのではないかと思った。しかし、私の意見は、所得が少ない人に対しての補助制度が必要だと思う。

私は、アフリカやタイ、インドネシアなどの貧困な地域でボランティア活動をこれまで行ってきた。そこでは、貧困でお金がなく生活することや生きることさえ困難になっている人がいて、とても胸がつまる思いをした。特に、「お金がない」という問題が多くの人を苦しめる原因になっていたと思う。

また、地域でも貧困で食事さえもできない子どもたちのために、食料を与えるというボランティアをしてきた。お金がないということは、大人だけでなく子どもにも影響してしまうということがわかる。

私は、そういう貧困な人々にお金を出せとは何があっても言えない。その人たちの生活がより苦しくなってほしくないのだ。これは個人事業やフリーランスの人と似た接点があると思う。自ら仕事をし、支えていくことはやはり難しいことだ。インボイス制度が本格的に始まってしまうと今から起業をしようとする人も減ると思う。なぜなら、倒産するリスクが高くなってしまうからだ。そこで私が提案したいのは、個人事業の場合今すぐに払う必要はないという期間をもたせることだ。お金に対して人々にゆとりをもたせてあげることが大事で、会社が崩れないように工夫を考えていく必要があると思う。

インボイス制度について賛否両論はあるが、正しく利用することで公平感が生まれ、公平な制度になると思う。新しい制度に対して様々な声上がるのは仕方のないことだ。しかし、この制度について多くの人が理解し、メリットとデメリットを踏まえたうえで、どういう行動をするべきなのかを考えていくことが大事だと思う。いい未来を作っていこうと人々が互いに高めあうことができれば、この制度はさらにいいものになると信じて。